

## T 日程・英語外部試験利用入試 1 限

科目	ページ
数 学 ①	2～13
数 学 ②	14～35
地 理	36～46
国 語	71～48

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 志望学部・学科によって選択する科目・試験時間が決まっているので注意すること。

志望学部(学科)	受験科目	試験時間
下記以外の学部(学科)	数学①または国語	60分
文学部(日本文)	国 語	90分
文学部(地理)	地 理	60分
情報科学部(コンピュータ科・デジタルメディア)	数学②	90分
デザイン工学部 (建築・都市環境デザイン工・システムデザイン)		
理工学部 (機械工〔機械工学専修〕・電気電子工・応用情報工・ 経営システム工・創生科)		
生命科学部 (生命機能・環境応用化・応用植物科)		

4. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
5. 数学②・国語については、志望学部・学科によって解答する問題番号が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。
6. 数学①②については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
7. マークシート解答方法については、問題冊子を裏返して裏表紙の注意事項を読みなさい。ただし、問題冊子を開かないこと。

# (文学部地理学科 地理)

文学部地理学科を志望する受験生のみ選択できる。

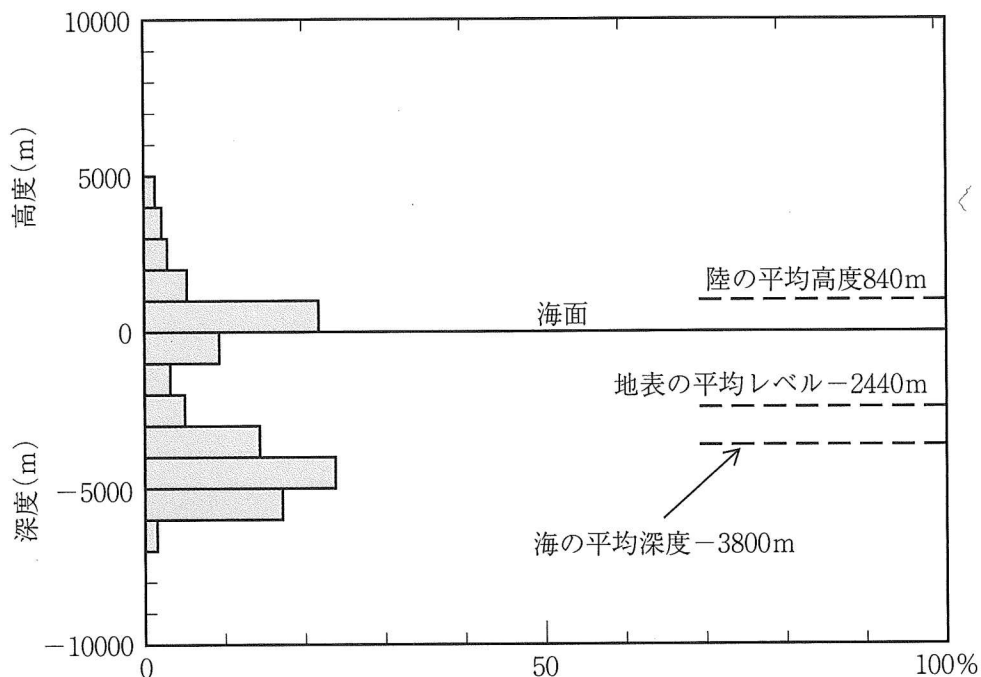
〔 I 〕 つぎの文章を読んで下記の問いに答えよ。解答は解答欄に記せ。

大陸、大山脈、海溝、海嶺など、数100～数1000kmの広がりをもって分布している地形を大地形とよぶ。大地形はプレート運動や広域に渡る地殻変動、火成活動、広域的な (a) ・ (b) 作用などの累積によって形成され、一般に数100万～数1000万年以上の長い時間をかけて形成される。大地形の場合でも海陸の別と水の循環がある限り、陸上は主に (a) の場であり、海底は主に (b) の場である。

地球上の大地形はおおよそ、安定陸塊、古期造山帯、新期造山帯に区分できる。安定陸塊は、(c) 時代以前の造山帯の集合が (d) 代以前に海面を基準とする長期間の (a) 作用によって平坦化された大平原である (e) ，および (d) 代以降の沈降によって (e) 上に (d) 代以降の地層がほぼ水平に (b) した台地状の地形である (f) に分けられる。古期造山帯は (d) 代の造山運動によって新たに大陸プレートが付加された地域を指し、古期造山帯の一部にはウラル山脈や (g) 山脈など造山運動の名残を残している山地もみられる。新期造山帯は、中生代や (h) 代に、せばまるプレート境界において大陸プレートが付加され続け、地殻変動や火成活動がごく最近まで盛んだった、もしくは現在も盛んな場所であり、いわゆる (i) と一致するところが多い。そのため、新期造山帯の多くはヒマラヤ山脈や (j) 山脈などの巨大山脈が分布している。安定陸塊、古期造山帯、新期造山帯では、形成時代を反映した特有の天然資源を産出し、人類の経済活動に大きな影響を与えている。<sup>(1)</sup>

問1 文中の (a) ~ (j) にあてはまる最も適当な語句を、解答欄に記入せよ。同じ記号の空欄には同じ言葉が入る。また、(g) は北アメリカ大陸、(j) は南アメリカ大陸にある山脈名を記入すること。

問2 つぎの第1図は地球表面の高度頻度分布(%)を示したものである。第1図を見て、以下の問いに答え、解答欄に記入せよ。



第1図

- (1) 陸地の平均高度は840mであり、高度分布の頻度(%)も0~1000mの部分が突出している。このこと的主要理由を解答欄の枠内で述べよ。
- (2) 海の平均深度は-3800mであり、深度分布では、-3000~-6000m付近に頻度の大きな山がある。この主要理由を解答欄の枠内で述べよ。
- (3) 海の深度頻度分布で、0~-1000mの部分に比較的頻度が高い部分がある。この主要理由を解答欄の枠内で述べよ。

## 地理

問3 つぎの(ア)~(エ)の中から造山運動とは言えない事象を一つ選び、解答欄にその記号を記せ。

- (ア) 沈み込むプレート境界での付加体の形成
- (イ) 沈み込むプレート境界での火成活動
- (ウ) 衝突するプレート境界での大陸地殻の重なり
- (エ) 広がるプレート境界での海嶺の形成

問4 下線部(1)について、それぞれの地質構造区に対応した天然資源に関する記述として次の(ア)~(エ)の中から適当でないものを一つ選び、その記号を解答欄に記せ。

- (ア) 大規模な鉄鉱床のほとんどが安定陸塊に分布している。
- (イ) 大規模な炭田は古期造山帯に分布していることが多いが、新期造山帯にも数は少ないが分布している。
- (ウ) 大規模な油田は、比較的新しい時代の有機炭素を含む地層の堆積と熱が必要であるため、ほとんどが新期造山帯に分布している。
- (エ) 大規模な銅の鉱床はマグマの活動と関係が深いため新期造山帯に分布していることが多いが、ホットスポットと関係する鉱山もある。

〔Ⅱ〕 人の移動に関するつぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。解答は解答欄に記せ。

ひとくちに人の移動と言っても、通勤や通学、買い物や娯楽による移動などの日々の移動(日常的な移動)もあれば、出張や旅行など必ずしも毎日行う訳ではない移動(非日常的な移動)もあり、その性格は異なる。しかし、どちらの移動にしろ、移動手段の発達によって移動可能な範囲は格段に広がり、 距離が<sup>(1)</sup>大幅に短縮してきた点は共通する。

通勤や通学は居住地と就業地・就学地を結ぶ移動であり、その距離や地理的条件、<sup>(2)</sup>交通条件によって用いる移動手段はさまざまであるが、前述のとおり、移動手段の発達により、遠距離の通勤や通学が可能となった。例えば、日本においては、中心都市と郊外を結ぶ鉄道網の発達によって中心都市から離れた場所からの通勤や通学が可能となり、居住地の中心都市からの遠隔化が進んだ。その結果として都市圏が拡大してきたが、過度に発達した交通網やそれに伴う交通量の増加によってさまざまな交通問題が生じている側面もある。

旅行による移動においてもさまざまな移動手段が用いられるが、地理的条件によって左右される側面もある。ヨーロッパ大陸では内陸水路交通が発達し、ライン川やドナウ川などのように複数の国家をまたがって流れる 河川では、外国船舶が自由に航行できることもあり、船舶による旅行は一般的である。また、海に囲まれた日本では、海外に行くにも、海外から来るにも移動手段が船舶か航空機に限られる。航空機の発達とともに、幹線航空路線に組み込まれ、その地域の航空交通の拠点である 空港を中心とする航空網の拡充は航空交通の利便性を高めてきた。その結果として、そのような国や都市では<sup>(4)</sup>アウトバウンド観光とインバウンド観光の両方の観光客数を増やしてきた。

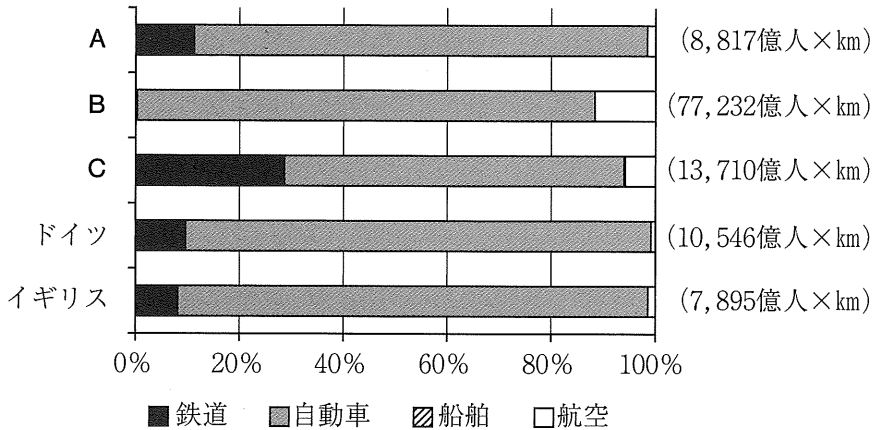
人の移動には上述とは別の意味での移動もある。住む場所を変える転居などの人口移動(居住地移動)もある種の人の移動に当てはまる。人口移動は社会経済情勢を反映し、日本においては、第二次世界大戦後、<sup>(5)</sup>三大都市圏への人口移動が顕著であった。また、国家間の移動は社会経済的に起因するだけでなく、戦争や紛争、政治的な理由によって移動を余儀なくされた多くの も生み出して

地理

きた。一方で、(e) 協定がヨーロッパ連合(EU)内の人の自由な移動を保証するように、国家に対する考え方が変わってきたのに伴い、国境を越えての人の移動<sup>(6)</sup>の捉え方も変容してきたといえよう。

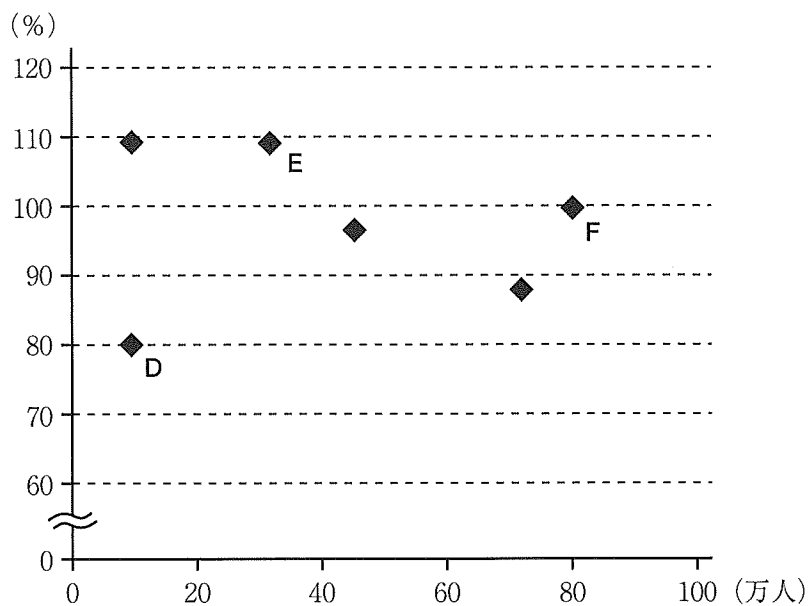
問1 文中の空欄 (a) ~ (e) にあてはまる最も適切な語句を答えよ。  
 なお、同一符号の空欄には同一の語句が入るものとする。

問2 下線部(1)について、以下の図はアメリカ合衆国、イギリス、ドイツ、日本、フランスにおける移動手段ごとの旅客輸送量(2009年)とその割合を表している。図中のA~Cに該当する国名をそれぞれ答えよ。



資料：『新編 地図資料』2016より作成。

問3 下線部(2)について、通勤・通学による移動により、同一の都市でも昼間人口と夜間人口には差異が生じる。以下の図は芦屋市、尼崎市、相模原市、那覇市、浜松市、室蘭市の2010年における夜間人口と昼夜間人口割合(昼間人口÷夜間人口)を表している。図中のD～Fに該当する都市名をそれぞれ答えよ。



資料：国勢調査(2010年)より作成。

問4 下線部(3)について、交通問題の一つに都市における交通渋滞がある。その交通渋滞に対処するために、どのような取り組みが行われているか答えよ。  
 なお、解答欄内であれば字数は問わない。

地理

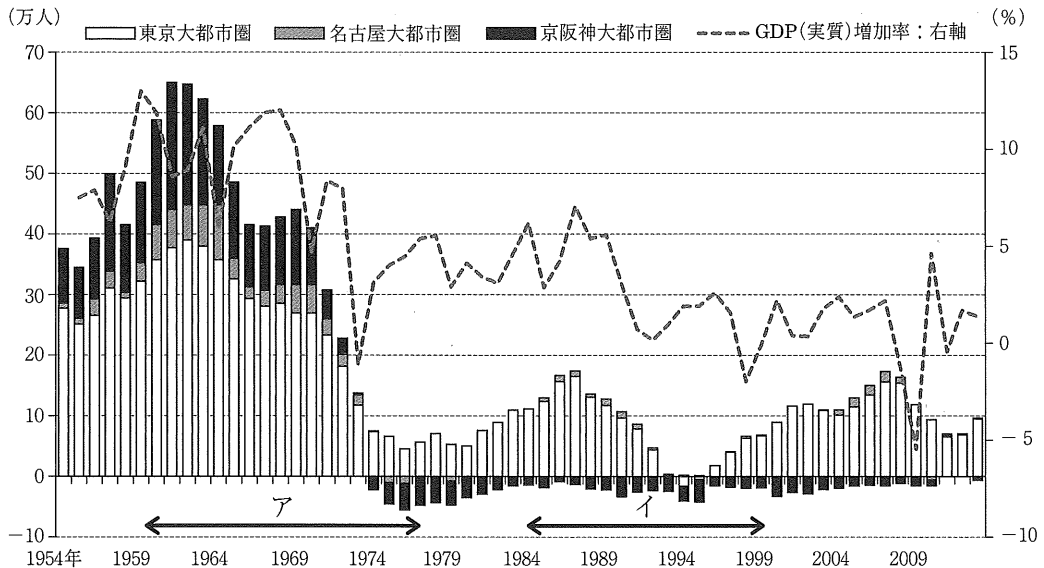
問5 下線部(4)について、以下の表は2013年におけるアメリカ合衆国、イタリア、中国、日本、フランスの観光客数(インバウンド観光)と海外旅行者数(アウトバウンド観光)を表している。表中のGとIに該当する国名をそれぞれ答えよ。

(単位：千人)

	G	H	I	J	日本
観光客数	84,726	69,768	55,686	47,704	10,364
海外旅行者数	26,243	61,569	98,185	27,798	17,473

資料：『データブック オブ・ザ・ワールド 2016』より作成。

問6 下線部(5)について、以下の図は1954年～2013年における三大都市圏への人口移動の状況を示している。図中のアとイの時期における人口移動の状況とその要因について、図中の国内総生産(実質 GDP)の増加率の推移や各時代の社会経済情勢を参考にして、それぞれ答えよ。なお、解答欄内であれば字数は問わない。



資料：「住民基本台帳移動報告」, 「国民経済計算」より作成。

注：東京大都市圏は埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、名古屋大都市圏は岐阜県、愛知県、三重県、京阪神大都市圏は京都府、大阪府、兵庫県、奈良県をそれぞれ範囲とする。



問7 下線部(6)について、以下の表はインド、シンガポール、中国、ドイツ、日本に関する国際的な移住者である在留外国人数(2010年時点)と、2012年における純移動数(海外からの移住者数－海外への移住者数)をそれぞれ表している。表中のK～Mに該当する国名をそれぞれ答えよ。

	K	L	M	日本	N
在留外国人数 (2010年時点)(単位：千人)	11,606	5,436	2,165	2,134	850
純移動数(入移民超過) (2012年)(単位：千人)	1,250	-2,598	398	350	-1,800

資料：World Development Indicators より作成。

## 地理

〔Ⅲ〕 メコン川流域開発に関するつぎの文章を読み下記の問いに答えよ。解答は解答欄に記せ。

メコン川は中国に源流を持ち、全長約4,800kmに及ぶ。中国国境を出て200km余りは [ a ] と [ b ] の国境線をなすが、そこは両国共に人口希薄な地域である。その後メコン川は [ a ] ・ [ b ] ・ [ c ] 三か国の国境をなす地域を経て、 [ a ] を流下した後、再び [ a ] と [ c ] の国境をなす。やがてカンボジアの平原を貫き、プノンペン近くで [ d ] 川と合流する。洪水時には、一部は [ d ] 湖との水位差によって [ d ] 川を逆流し、120km先の同湖まで通じる。プノンペン上流のクラティエを過ぎた付近から下流域は「メコン [ e ] 」と呼ばれる低平な穀倉地帯であり、メコン川は最終的に南シナ海に注ぐ。

メコン川流域、とりわけ下流地域では、 [ あ ] モンスーンの影響で5月頃から10月頃にかけて雨季となり、11月頃から5月頃まで [ い ] モンスーンの影響で乾季となる。5月頃からメコン川は増水し、9月頃ピークを迎える。しかし近年では、上流域の開発によって水位・流量の異常変動、侵食の増大が下流域<sup>(1)</sup>で報告され、生態系にも影響が出ていると言われている。

2000年代初めのメコン川の流域人口は6,000万人を超えるが、中国を除く流域国のうち最も人口が多い国は [ f ] である。中国の1省1自治区<sup>(2)</sup>とその他の流域5か国の2012年の名目GDPは約9,690億ドル、貿易額は約8,100億ドルである。

[ c ] を除く流域諸国は第二次世界大戦後、社会主義体制の道を選んだが、1980年代後半以降、 [ a ] は新思考(チンタナカーン・マイ)政策、 [ f ] は刷新を意味する [ g ] をそれぞれ打ち出し、計画経済から市場経済への移行を開始した。とりわけ1991年パリ和平協定以降、メコン川流域地域は大きな転機を迎えることになった。アジア開発銀行のイニシアティブのもとで1992年にメコン流域6か国の経済閣僚による会議が持たれ、大メコン圏経済協力プログラムが始まった。同プログラムの特色は「ツー・プラス原則」と呼ばれ、プロジェクト対象が2か国以上にまたがること、もしくは空港建設など地域全体に

影響が及びうることが条件とされた。 [ c ] に端を発した1997年の「アジア [ h ] 」によって同プログラムは一時停滞したが、そこから飛躍を遂げるため提示されたのが「経済回廊」というとらえ方であり、交通インフラ整備とともに国境地域の手続きの簡素化が強調された。現在は南北経済回廊、東西経済回廊、南部経済回廊が国境をまたぎ整備されつつある。

(笠井利之, 牛山隆一, 石田正美, 石田・平塚・工藤の文章を一部改変)

問1 文中の空欄 [ a ] ~ [ h ] にあてはまる最も適切な語句を答えよ。  
 なお, [ a ] [ b ] [ c ] [ f ] には国名を答えよ。国名は正式名称でなくてよい。同一記号には同一用語が入る。

問2 文中の空欄 [ あ ] [ い ] に適する語句を以下の語群から一つずつ選び①~④の番号で答えよ。

[語群]

- ① 南東                      ② 北東                      ③ 南西                      ④ 北西

問3 表1は中国を除くメコン川流域5か国のGDP, 1人当たりGDPと成人男女平均識字率を示したものである。A~Eの国名を答えよ。

表1 メコン流域5か国のGDP, 1人当たりGDPと識字率

国名	2000年 (百万ドル)	2013年 (百万ドル)	2013年の1人当たり GDP(ドル)	2015年の成人男女 平均識字率(%)
A	126,148	420,167	6,270	96.7
B	31,173	171,222	1,868	94.5
C	7,275	63,031	1,183	93.1
D	3,667	15,250	1,008	77.2
E	1,665	10,760	1,589	79.9

『世界国勢図会 2015/16年版』

## 地理

問4 下線部(1)に関連して、下流域の水位・流量の変動をもたらしているとされる上流域での開発について、どのような開発が行われているか20字以内で答えよ。

問5 下線部(2)に関連して、大メコン圏経済プログラムには中国の1省1自治区が参画している。一つは2005年に参画した広西チワン族自治区であるが、同プログラム開始時から参画しているもう一つの省名を答えよ。

(白 紙)

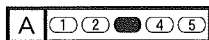
### マークシート解答方法についての注意(共通事項)

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

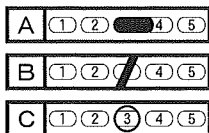
#### 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



} 枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

### 「数学②」(情報科学部・デザイン工学部・理工学部・生命科学部)

#### マークシート解答上の注意

「数学②(情報科学部・デザイン工学部・理工学部・生命科学部)」は「数学①(それ以外の学部)」と異なる科目です。

問題中の ア, イ, ウ … のそれぞれには、特に指示がないかぎり、- (マイナスの符号), または0~9までの数が1つずつ入る。当てはまるものを選び、マークシートの解答用紙の対応する欄にマークして解答しなさい。

ただし、分数の形で解答が求められているときには、符号は分子に付け、分母・分子をできる限り約分して解答しなさい。

また、根号を含む形で解答が求められているときには、根号の中に現れる自然数が最小となる形で解答しなさい。

〔例〕  $\frac{\text{ア} \sqrt{\text{イ}}}{\text{ウエ}}$  に  $\frac{-\sqrt{3}}{14}$  と答えたいときには、以下のようにマークしなさい。

ア	●	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イ	⊖	0	1	2	●	4	5	6	7	8	9
ウ	⊖	0	●	2	3	4	5	6	7	8	9
エ	⊖	0	1	2	3	●	5	6	7	8	9

※ 「数学①」の選択肢には-(マイナスの符号)はありません。